

議案第9号「令和4年度座間市一般会計予算」に対する附帯決議

本議案は、市長いわく「第五次座間市総合計画や2025年問題を見据えた中長期的な視点で選択と集中により、全ての事業を見直し、優先的にやらなければならないことを見極め、さらに公約実現に向けて着実に進めていくことができなかった」ということで、初めて独自色を出した予算編成となった。しかし、短期間で決定されたことで、計画性についての疑念も生じていると言わざるを得ない。「急いで事は仕損じる」という言葉を当てはめるなら、行政運営においてはスピード感もさることながらリスク管理も強く求められる。

そのような懸念に加え、今回の予算編成は、庁内での調整不足に加えて計画性に欠ける点などが露呈していると感じるものである。

よって、本市議会は、令和4年度座間市一般会計予算の執行に当たっては、以下の事項について十分留意することを求める。

ふるさと納税返礼品事業において、返礼品が明らかになっていない中、近隣市の初年度実績を基に算出した寄付金額及び目標件数は、明らかにエビデンスに欠けており事業の目標とされた本市の産業振興に資するか否かという点は不透明と言わざるを得ない。

また、大規模店舗などでの消費につながる返礼品を安易に選択すれば、地場産業、地元商業を活性化すると訴えてきた市長の姿勢と矛盾も生じると考えることから、所管となっている企画政策課に加えて商工観光課等との情報共有並びに連携を強化すべきと指摘する。

よって、ふるさと納税の返礼品については、特に地場産業や地域商業の振興に資するもので構成することを強く求める。

東中学校エレベーター設置工事設計委託事業において、国が令和7年度末までに要配慮児童生徒等が在籍する全ての学校にエレベーターを整備することを目標とする中、これまで市内においても階段昇降機の事故が複数回あったことに加え、県内他自治体との比較で本市が遅れている現状を認識し、懸命に整備を進めようしてきた姿勢は評価するところでもある。

しかし、今回の予算措置は、今後の設置計画を含めた全体のスケジュールが不透明であり、学区外への登校を余儀なくされる児童・生徒へのアクセス支援、今後の整備計画も具体的に示されていない。上記の点に関して、配慮し、事業を進めるよう強く求める。

学校給食施設整備事業の空調機器設置委託料において、国庫補助金の活用を前提とする公共工事では時間と費用がかかるという答弁が予算決算常任委員会民生教育分科会でされるなど、まさに急いで事は仕損じるの典型と指摘をせざるを得ない。さらにこの答弁の裏づけとなる根拠は示されず、採決での判断にも影響する可能性があることも申し添えておく。同事業の必要性と緊急性について異論を挟む余地はないが、財源については十分な議論が交わされることなく、一般財源のみでの対応となったことは遺憾であり、国庫補助を活用するなどあらゆる対応を模索すべきであり、再考を求める。

座間南林間線道路改良事業において、予算決算常任委員会都市環境分科会の審議では小田急相模原駅前西地区市街地再開発事業におけるペDESTリアンデッキ建設凍結と同様に、周囲に与える影響を考慮しないまま急遽凍結される可能性も否定できないと指摘せざるを得ないが、本事業は県との連携事業であり、民間鉄道事業者も深く関係していることから、市長の判断により再び急遽凍結ということになれば、さらなる信頼関係の失墜につながる恐れもあり、そのようなことが起きないように着実な事業完結に向けて、改めて鋭意努力をするよう強く求める。

その他の事業についても継続して精査をした上で、庁内連携を加速させ、大胆な上にも慎重な計画を練り上げ、市長の個性のみでなく、職員一丸となった組織的な行政運営がされるよう強く求める。

以上、決議する。

令和4年3月23日

座 間 市 議 会